

Spring Seminar 2017 5th Cテーブル (22 番) 総評

担当ジャッジ：福島滉士 (明治4)、若尾実紘 (法市4)

《テーブルメンバー》齋藤 (明学2)、佐々木 (明学3)、赤江 (青学2)、田中 (青学2)、関戸 (慶應2)、石井 (明治2)、丹野 (芝工2) ※順不同

《全体への総評》 文責：福島

【議論のおおまかな流れ】

オピメ決めでは関戸が立候補した。他に立候補した者がいなかったため、オピメは関戸に決定した。

関戸のオピシは、移植手術を受けたくても受けられない患者の s/m を減らすために、移植可能な臓器を増やすことを目的としたものであった。

ASQ では佐々木による TG である患者についての定義の確認、赤江、田中による脳死についての定義の確認等が行われた。

NFC では田中が「IPS 細胞から新しい臓器を創造することができる」というアイデアを出した。これに対し関戸が「未来のことを証明できるのか」「Mandate によって、APA ではすべての脳死者が臓器移植を認めるため、移植可能な臓器の数は上昇する」と述べた。最終的に佐々木の S によって切られた。

Praca では赤江が「医療技術が失われるから医者が賛成しない、そのために T/P できない」というアイデアを出した。しかし、このアイデアをテーブルメンバーが理解することに大幅な時間がかかってしまい議論が停滞することが多かった。議論を進めるため田中、石井が積極的に C を出していた。

田中の「DA として話そう」という S を受け入れ、議論は終了した。

【よかったところ、改善点】

全体を通して、アイデアがテーブルメンバーに浸透していない時が多かったため、議論が停滞することが多かった。その都度誰かが C を通してテーブルメンバーに浸透させようとするのだが、不十分な C も何度か見られた。ディスカッションの本質とは皆で 1 つの結論を出すことであり、それぞれの意見を共有し理解することは話し合いを進める上での大前提である。C を通してアイデアを浸透させ、論点を明確に示し、それぞれが議論を動かせるようになるよう頑張ってください。

《テーブル順位及び個人評価》文責：若尾

一位

田中（青学2年）

Objection を出してテーブルの議論を深めた点、様々な場面でCを積極的に打ち、テーブルメンバーの理解を促進させる役割を常に担っていたため一位としました。Doubt もしっかり出せていてよかったのですが、Goal を考えてそれも一緒にテーブルに見せると、よりテーブルメンバーが理解しやすく、議論を促進できると思うので今後プレパを通して、より議論を促進できるプレイヤーになってください。応援しています。

二位

赤江（青学2年）

コンスタントな介入に加え、医療技術が失われるので T/P できないというアイデアを practicability に出したため、二位に選出しました。しかし、この赤江さんのアイデアをテーブルメンバーが理解することに大幅な時間がかかってしまいました。相手の Doubt に対しても反論できてたのでしっかり考えられているアイデアだと思いました。なので、より上手く相手に伝えるためのプレゼン練習が今後の課題に挙げられると思います。今後練習をすることで、より議論を深められるアーギュメンターになれると思います。応援しています。

三位

関戸（慶應2年）

オピニオンプレゼンターとしてテーブル全体へのコンスタントな介入が見られたため、三位に選定しました。しかし PLAN に入ってから介入の量が減っていたのが惜しかったです。おそらく objection の内容理解ができなかったのが一因だと思うので、積極的に C をするようにしましょう。初めて O/T でオピニオンプレゼンターをしていましたが、練習を繰り返せば、自分で議論を展開できるオピニオンプレゼンターになれると思うので頑張ってください。応援しています。

四位

佐々木（明学3年）議論が停滞した場面において冷静な視点で介入でき、NFCでは Objection を切り、停滞していた議論を促進させたため、四位に選定しました。別のテーブルで佐々木さんを見た時も議論を更に促進できる技術はあると思ったので、あとは介入量を増やすだけだと思います。今後はもっと積極的に議論を先に進めることができるよう頑張ってください。応援しています。

五位

石井（明治2年）

分からない点を自分が理解するだけでなく、Cを通してテーブルメンバーに浸透させていたため、五位に選定しました。今後はアイデアを理解するだけでなく、そのアイデアをどう話せるのかまで考えられるようにしていくのが大切だと思います。応援しています。

六位

丹野（芝工2年）

分からない点を一つ一つ明確にするためのCが出来ていました。しかし、介入が限定的だったため、六位に選定しました。自分のアイデアを持ってテーブルにのぞめば、より議論が面白くなると思います。プレゼンもしっかりできていたので、今後ともぜひ頑張っていてほしいです。応援しています。

七位

齋藤（明学2年）

介入がなかったため、七位に選定しました。六位の丹野さん同様、自分のアイデアを持ってテーブルにのぞめば、より議論が面白くなると思うので何かアイデアを考えてみてください。応援しています。